

# J A共済杯第 10 回インターミディエット 全日本リトルリーグ野球選手権東関東連盟大会規則

※国際トーナメント規則が適用されるため特に投手の規則（投球制限、休息日等）には留意する

## I 大会規則

2022 年リトルリーグ公認規定競技規則（インターミディエット部門）、トーナメント規則及びガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

## II 登録及び義務

- 1 選手登録
  - 1) 年齢 リトルリーグ年齢 11 歳・12 歳・13 歳の選手
  - 2) 人数 14 名以内
- 2 監督およびコーチ
  - 1) 監督 1 名
  - 2) コーチ 2 名まで
  - 3) 監督、コーチは成人に限る。
  - 4) 携帯電話等外部と連絡する事が出来る機器類はベンチへ持ち込んで서는ならない。
- 3 登録した監督、コーチ、選手のみベンチに入ることができる。
- 4 登録選手の義務  
登録選手は全員試合に出場し、規則VIIに明記されている特記事項全員出場の義務を果たさなければならない。

## III 服装

- 1 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。
  - ① なお、白色のアンダーシャツは認められない。
  - ② 連合チームは統一することが望ましいが、自リーグのユニホームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。
- 2 監督・コーチの服装は通常のユニホーム、帽子を着用して良いが、金属のスパイクは使用できない。成人のベースコーチのヘルメット着用は任意とする。（ヘルメットには J A 共済シールを貼付する）

## IV 用具

- 1 捕手用具はリトルリーグ（メジャー）部門と同一のものを使用できる。捕手は、試合及び練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも可）、マスク、スロートガード、及びカップを着用する。
- 2 打者用ヘルメットは（7 個）はリトルリーグ（メジャー）部門と同一のものを使用できるが、顎ひものないヘルメットも使用可とする。
- 3 非木製バットは、USABat規格に合致したものでなければならない。また、BBCOR規格に準拠したバットを使用できる。（規則 1.10 参照）
- 4 金属製スパイクの使用は可とする。
- 5 胸部保護パッドを着用することが望ましい。

## V 試合の準備

- 1 ベンチは組み合わせ抽選の若い番号を一塁側とする。

- 2 攻守は主将により、試合当日決定する。
- 3 シートノックは後攻より7分間とするが、都合でカットする場合もある。
- 4 シートノック時に限り背番号なしのユニホームで3人まで自チームの補助係として認める。
- 5 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ている良い。

## VI 試合の運営

1

- 1) リーグ戦の試合順序
  - 3リーグの場合（数字は各組合せ枠ごとの順番を示す）
    - ・第1試合・・・1：2
    - ・第2試合・・・第1試合の敗者：3
    - ・第3試合・・・第1試合の勝者：3
- 2) リーグ戦の順位決定
  1. 勝率 2. 失点率 3. 直接対戦の勝者 4. 得点率 5. コイントス
  - ①勝率・・・勝ち数÷試合数（引き分け試合は勝ち数、試合数に加算しない）
  - ②失点率・・・総失点÷総守備イニング数
  - ④得点率・・・得点数÷総攻撃イニング数
  - ⑤コイントス・各チーム代表者1名によるコイントス
- 2 トーナメントの延長戦は8回までとし、8回で決着しない場合は9回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
  - 1) 攻撃は無死二塁から始める。
  - 2) 打者は8回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が2塁走者となる。
  - 3) 投手は8回に登板していた投手が投球規定に従って引き続き投げる。
- 3 全試合、4回15点差、5回以降10点差によるコールドゲームを採用する。
- 4 走者のヘッドスライディングは許される。
- 5 ボークは適用される。
  - 1) 投手板に触れている投手が、1塁へ偽投した場合
  - 2) 投球が打者に当たった場合、反則投球ではなく打者はデッドボールとし1塁へ進塁させる
  - 3) ボークが宣告された際に投球がなされた場合、打者がその投球にプレーしたか否かにかかわらず投球数はカウントされる。但し、ピックオフプレーを意図したケースで宣告されたボークあるいは投手が実際に投球しなかった場合は投球数にはカウントしない。
- 6 ネクストバッタースボックスは使用できる。（ただし、グラウンドの広さ次第でネクストバッタースボックスを設置しない場合もある）
- 7 ベースコーチは選手あるいは監督・コーチが務めることができる。両方のベースコーチを監督、コーチとしても良い。ただし、ダグアウトには監督・コーチが最低1人はいなければならない。
- 8 監督またはコーチが投手のもとへ行ける回数はリトルリーグ（メジャー）部門と同一である。
- 9 打者はバッタースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバッタースボックス内にとどめておかなければならない。
 

ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバッタースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。警告後に再度バッタースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。一人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとはならない。

注：ストライクのコールが3ストライク目でない限り、打者はバッタースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

## 1 0 投手の規則

- 1) 投手は一度降板し他のポジションに移っても、控え選手と交代していなければ、その試合で一度だけ再登板できる。
- 2) 投手が1日および1試合に投球できる球数は下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
11, 12 歳選手	85 球
13 歳選手	95 球

- 3) 投手は1日に2試合以上投手を務めることはできない。
- 4) 投手はその投球数によって下記休息日（登板禁止日）を守らなければならない

1日の投球数	休息日
66 球以上	4 日
51～65 球	3 日
36～50 球	2 日
21～35 球	1 日
20 球以下	不要

## 1 1 全員出場義務の規則

- 1) リトルリーグ（メジャー）部門と同一条件で全員出場させなければならない。
  - a. 13名以上の選手が試合に参加している場合、当日の名簿上の全選手が攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。
  - b. 12名以下の選手で試合に参加している場合は、当日の名簿上の全選手が守備において最低6つの連続したアウトと、攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。
- 2) 走者に対する全員出場義務を満たす前に交代した選手は、不適格な交代を行った選手とみなされる。

攻撃において最低で1打席とは、選手がノーカウントから打席に立ち、その打者が凡退するか打者走者としてアウトになるか、出塁した場合は、得点するか、そのイニングまたは試合が終了することをさす。
- 3) 本規則に違反した場合、監督は退場となり、残りの試合からも解任され、交代することもできない。（トーナメント競技規則9. 参照=2021年変更に注意）

## 1 2 スペシャルピンチランナー

イニングに1回、1試合に2回に限り、攻撃側選手に対してその時点で打撃順に加わっていない選手を使用してスペシャルピンチランナーを起用することができる。スペシャルピンチランナーは1人の選手に対して1回のみ使用できる。スペシャルピンチランナーに交代された選手はラインナップから外れるわけではない。スペシャルピンチランナーがそのまま残った場合は選手交代したものとみなされ、打撃順に入っている間はスペシャルピンチランナーとして起用することはできない。しかしながら、その選手がさらに他の選手と交代した場合や、その他の打撃順に入っていない選手は再度スペシャルピンチランナーに起用することができる。

## 1 3 申告敬遠は適用されない。

## VII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となった時

- 1 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。この場合全ての記録は有効となる。
- 2 試合成立（5回完了、または5回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
- 3 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合はサスペンデッドゲームとす

- る。
- 4 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも、先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や、後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。  
(注) サスペンデッドゲームはすでに終了したインニング数に関係なく、正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない。
  - 5 サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに20球以下の投球数の投手は、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
  - 6 中断までの投球数が21～40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。
  - 7 41球以上投げた投手は規定の休息日が必要となる。

## VIII 補則

- 1) 日本協会、各自治体通達、東関東連盟のガイドラインを遵守し、感染拡大防止対策を徹底する事。
- 2) ベンチ内の指導者、選手はマスク着用を義務付ける。又、ベンチ内で大声を出さない事。コーチボックスに入る指導者、選手にもマスク着用を義務付ける。
- 3) 審判員及び応援の保護者もマスク着用を義務付ける